

はじめに

山口キャピタルは、年間約500社超のスタートアップに出会っています。
STARTUP INTERVIEWでは、熱い想いを持ったスタートアップの方に自社事業の取り組みや、山口キャピタルとの出会い・連携事例などをお伺いしていきます。
第1回目は、中小企業に対する企業年金の導入をサポートする株式会社ベター・プレイス取締役CFOの野崎様にお話をお伺いしました！



「全国の中小企業で働く人々に、はぐくみ企業年金をお届けする」

というパーパスを軸にVCと連携していきたい

会社概要

会社名 : 株式会社ベター・プレイス
所在地 : 東京都新宿区市谷本村町1-1 住友市ヶ谷ビル15F
代表者 : 代表取締役社長 森本 新士
設立 : 2011年10月17日
事業内容 : 企業年金DXシステム「はぐONE」の提供
「福祉はぐくみ企業年金基金」企業年金・退職金制度導入設計・サポート
企業型確定拠出年金導入設計・サポート



<取材協力>

野崎 始 (のぞきはじめ)
株式会社ベター・プレイス
取締役CFO



<インタビュー/投資担当者>

山口 亮太 (やまぐちりょうた)
山口キャピタル株式会社
ディレクター

山口：改めてお伺いしますが、事業を始められたきっかけを教えてください。

野崎：“中小企業で働く人々に企業年金をお届けしたい”という思いで社長の森本が起業したことがきっかけです。このような思いに至った理由として、日本の年金制度の現状を少しお話ししますね。日本には厚生年金の被保険者が約4,160万人いますが、このうち確定給付企業年金(DB)または企業型確定拠出年金(DC)に入っている人は約1,730万人となっており、残りの約2,430万人は企業年金には入れていないという現状があります。そして、企業の従業員規模が大きいほど、企業年金の導入率が上がるというデータがあります。これらのことから、大企業に勤める豊かな人の方が企業年金の恩恵を受けることができているということが分かると思います。その理由として、企業年金は費用と手間がかかるリッチな制度であるため、大企業しか企業年金制度を導入できないということが挙げられます。企業年金制度という素晴らしい制度があるにもかかわらず格差が拡大しているというのは悲しいですね。この格差を正して、中小企業で働く方々に企業年金をお届けしたいというのが弊社の思いです。



山口：ありがとうございます。山口キャピタルはベター・プレイス様に出資をさせていただいていますが、私も投資担当者として御社を知った時は、これは地域の中小企業の方々に是非ご案内したい！と思ったのを覚えています。我々からの出資を受けていただいたのは何か理由があったのでしょうか。

野崎：きっかけは、山口フィナンシャルグループ様からご紹介いただいたことです。弊社は山口フィナンシャルグループと先にビジネスマッチング契約を結んでおり、その後山口キャピタル様をご紹介いただきました。第三者からご紹介いただくことが多いので、グループ企業間での紹介はとても珍しいケースでした。現在では、ビジネスマッチング提携と出資を組み合わせるスキームが確立されていますが、当時は珍しかったので山口フィナンシャルグループ・山口キャピタルとの繋がりが出発点になったのではないかと思います。

山口：実際に、弊社との関わりの中でプラスに感じたことや良かったことはありますか。

野崎：難しい質問ですね(笑)

弊社は、独立系VCや地方銀行系VCからご出資いただいておりますが、日頃から感じているのは“VCは差別化するのが難しい”ということです。そんな中、山口キャピタルさんは面白い取り組みをされているなという印象があります。SAS(※1)の開催やスタートアップパンフレットの発刊のほか、今回のスタートアップへの取材も良い取り組みだと思います。出資先にとって有用なバリューアップをしようという思いが伝わってきますし、出資していただいて良かったと感じています。日々いろいろなトラブルが起こりますが、山口キャピタルさんが相談相手としていてくれることが心強いです。

※1 SAS：山口フィナンシャルグループが主催する、地域とスタートアップによる地域共創サミット「Shimonoseki Add-venture Summit」の略称。

山口：嬉しいお言葉ありがとうございます。

さらに、今後弊社に期待することがあれば教えてください。

野崎：地方銀行系VCである山口キャピタルには「中小企業リーチの仲間づくり」を期待しています。我々のパーパスである「全国の中小企業とそこで働く人々にはぐくみ企業年金をお届けする」を叶えるためには、仲間と一緒に取り組むことが大切だと考えています。

企業年金を導入することができない地方の中小企業と関わるために、地方銀行は大きな存在です。現在、全国25行(※2)とビジネスマッチング提携を進めていますが、資本業務提携することで、お互いが企業年金を推進していこうという活動を行っています。今後は、各行が集まってベストプラクティス交換会などを実施して、全国25行+当社が仲間として有機的に活動していきたいと思っていますので、ご協力お願いいたします！

※2 2025年1月31日現在



山口：是非一緒に活動していきましょう！

では最後に、今後の事業展開について想いをお聞かせください。

野崎：我々のパーパス「全国の中小企業とそこで働く人々にはぐくみ企業年金をお届けする」に専念していきます。市井の人の資産形成に貢献していくことが我々の誇りでありオリジナリティーですので、今後もコツコツ愚直に取り組んでいきます。

また、今後の事業展開の1つとして、子供の貧困問題をビジネスで解決することが目標です。市井の人の資産形成に貢献するというのは、大人だけでなく子供にとっても大切なことです。日本の大きな問題として、子供9人のうち1人は相対的貧困であると言われております。ひとり親世帯の相対的貧困率は44.5%、可処分所得は月額約14万円で教育や娯楽にかけられるお金がなく、負の連鎖が起こることも想定できます。そこで、教育支援・経済支援・就労支援の分野でビジネスを確立し格差をなくすことが今後、力を入れたい事業の1つです。

山口：ご協力ありがとうございました！